

2021 年度冬季における沖曳網でのホンモロコ漁獲物調査

寺井章人・根本守仁・磯田能年

1. 目的

ホンモロコの資源管理を推進していくための基礎資料とするため、産卵直前の冬季に、主要な漁法である沖曳網での漁獲物について体長等を調査し、過年度の結果と比較した。

2. 方法

調査は、2022 年 1 月 19 日～2 月 25 日に、琵琶湖北湖の沖合で沖曳網により漁獲されたホンモロコ 6,226 尾を対象に実施した。標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長等を計測し、その後、開腹して、生殖腺を肉眼で観察することにより性の判別を行った。年齢査定は鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

年齢構成について、0 歳魚が 5,472 尾で 87.89%、1 歳魚が 575 尾で 9.24%、2 歳魚が 174 尾で 2.79%、3 歳魚が 5 尾で 0.08%であった。過年度の結果も含めて図 1 に示した。2021 年は 1 歳魚以上の割合がやや高かった。

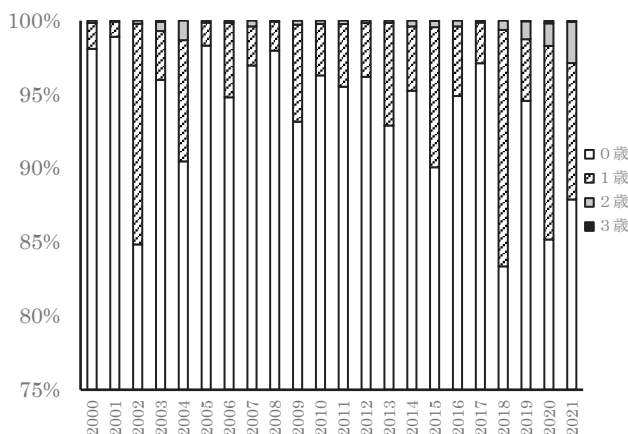


図 1 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの年齢構成

性比について、雌の割合は、0 歳魚では 45.8%、1 歳魚では 71.1%であった。過年度

の結果も含めて図 2 に示した。どの年度においても、0 歳魚では雌雄比がほぼ 1:1 であり、1 歳以上魚では雌の割合が高いという傾向がみられた。

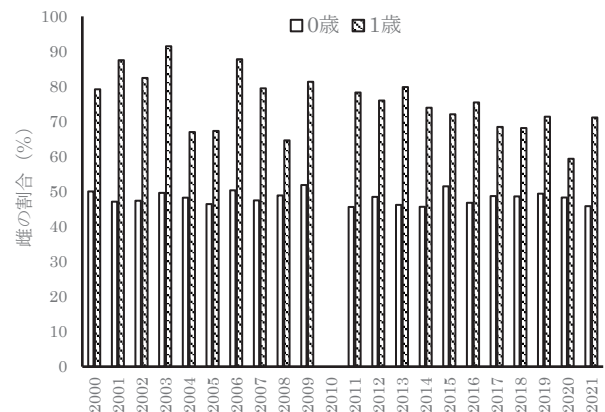


図 2 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの性比

体長について、0 歳魚では 77.27 ± 7.96 (平均 ± 標準偏差) mm であった。過年度の結果も含めて図 3 に示した。2012 年以降平均体長が 80mm を越えない小型化の傾向がみられる。

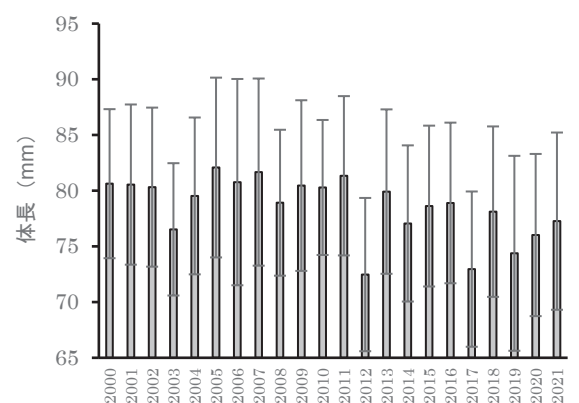


図 3 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコ 0 歳魚の体長

※エラーバーは標準偏差

本報告は、滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。